

# グローバルな貧困の現状

法哲学ゼミ

2013年6月3日

文責：青山薫 稲井あずさ 山本大河

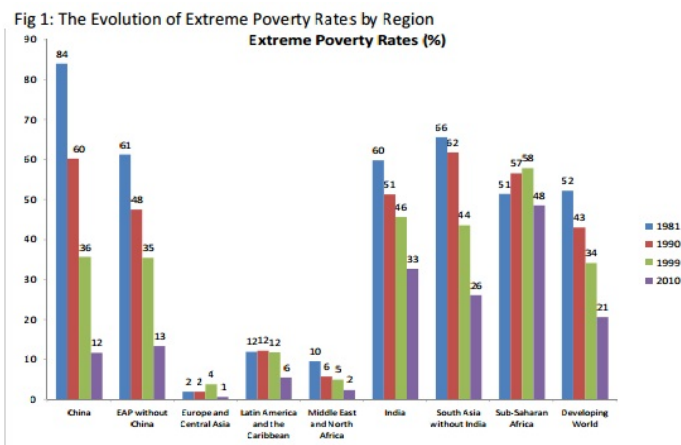
## I. グローバルな貧困

### I-1. 現状

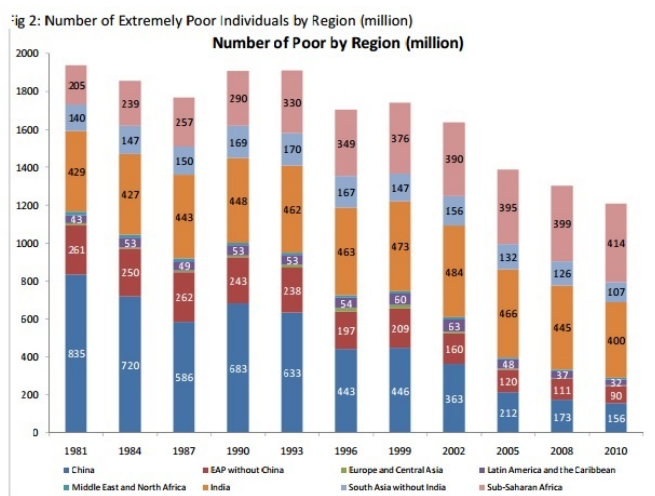
「世界銀行によると 1日1.25ドル未満で生活する最貧困層は12億人に上り、世界人口の約5分の1を占める。特にサハラ砂漠以南のアフリカには世界の最貧困層の3分の1以上が集中する。」

(毎日新聞 2013年05月17日 東京朝刊)

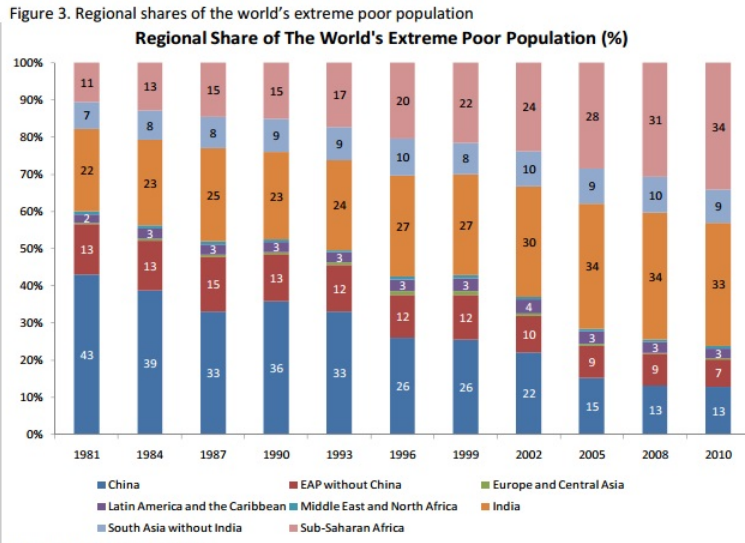
#### ●最貧困層の割合 (%)



#### ●最貧困層の人口 (100万人)



● 最貧困層の世界における地域別割合 (%)



(図 : Poverty Reduction and Economic Management - World Bank  
 ”The State of the Poor: Where are the Poor and where are they Poorest?”)

I - 2. 貧困の定義

- ・ 国際貧困ライン… 「1 日 1.25 ドル未満で暮らす人の比率」 (世界銀行が定義)  
 cf. 1 日 2 ドル… 中所得層等におけるの貧困の目安。現在およそ 30 億人が該当する。
- ・ 最貧国 … 開発途上国の中でも最も開発が遅れた国々  
 ≡ 後発開発途上国 (Least Developed Countries)
- ・ 絶対的貧困… 必要最低限の生活水準 (食料・衣服・衛生・住居) が満たされない
- ・ 「潜在能力を実現する権利の剥奪(a capacity deprivation)」  
 (ノーベル経済学賞受賞者 アマルティア・セン)

## II. 国連ミレニアム開発目標 (MDGs: Millennium Development Goals)



2000年9月に開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言(注)と、1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国連開発目標を統合し、一つの共通の枠組みとしてまとめられたもの。193の国連加盟国と23の国際機関が合意している。

(注) 国連ミレニアム宣言：平和と安全、開発と貧困、環境、人権とグッドガバナンス(良い統治)、アフリカの特別なニーズなどを課題として掲げ、21世紀の国連の役割に関する明確な方向性を提示

背景：

1980年代には、多くの途上国で市場経済メカニズムに依拠する構造調整政策を通じた開発手法が採用されましたが、この手法はしばしば順調に進まず、また貧困の悪化をも引き起こすことがありました。その反省もあり1990年代は貧困に対する関心が高まり、1995年の世界社会開発サミットでは、人間中心の社会開発を目指し、世界の絶対的貧困を半減させるという目標が提示されました。国連ミレニアム開発目標はこのような人間を開発の中心に置く国際潮流を発展的に統合したものとと言えます。

目標と主なターゲット

 <b>目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅</b> <ul style="list-style-type: none"><li>1日1.25ドル未満で生活する人口の割合を半減させる</li><li>飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる</li></ul>	 <b>目標5: 妊産婦の健康の改善</b> <ul style="list-style-type: none"><li>妊産婦の死亡率を4分の1に削減する</li></ul>
 <b>目標2: 初等教育の完全普及の達成</b> <ul style="list-style-type: none"><li>すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする</li></ul>	 <b>目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止</b> <ul style="list-style-type: none"><li>HIV/エイズの蔓延を阻止し、その後減少させる</li></ul>
 <b>目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上</b> <ul style="list-style-type: none"><li>すべての教育レベルにおける男女格差を解消する</li></ul>	 <b>目標7: 環境の持続可能性確保</b> <ul style="list-style-type: none"><li>安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる</li></ul>
 <b>目標4: 乳幼児死亡率の削減</b> <ul style="list-style-type: none"><li>5歳未満児の死亡率を3分の1に削減する</li></ul>	 <b>目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進</b> <ul style="list-style-type: none"><li>民間部門と協力し、情報・通信分野の新技术による利益が得られるようにする</li></ul>

\*ロゴは「特定非営利活動法人(まっとうけない)世界のまずしさ」が作成したものです。

目標	アフリカ		アジア				オセアニア	ラテンアメリカ カリブ	中央アジア・コーカ ス
	北	サブ・サハラ	東	東南	南	西			

**目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅**

極度の貧困半減	低貧困	極	中	高	極	低	極	中	低
生産的かつ適切な雇用	とても少ない	極度に少ない	とても少ない	とても少ない	極度に少ない	とても少ない	極度に少ない	中程度に少ない	中程度に少ない
極度の飢餓半減	低	極	中	中	高	中	中	中	中

**目標2: 初等教育の完全普及の達成**

初等教育の完全普及	高普及	中	高	高	高	高	-	高	高
-----------	-----	---	---	---	---	---	---	---	---

**目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上**

初等教育における女性の就学率	同等に近い	同等に近い	同等	同等	同等	同等に近い	同等に近い	同等	同等
女性賃金労働者の割合	低	中	高	中	低	低	中	高	高
国会における女性議員の割合	低	中	中	低	低	低	とても低い	中	低

**目標4: 乳幼児死亡率の削減**

5才以下死亡率 2/3削減	低死亡率	高	低	低	中	低	中	低	中
------------------	------	---	---	---	---	---	---	---	---

**目標5: 妊産婦の健康の改善**

妊産婦死亡率 3/4削減	低死亡率	とても高い	低	中	高	低	高	低	低
リプロダクティブ・ヘルス へのアクセス	中アクセス	低	高	中	中	中	低	高	中

**目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延の防止**

HIV/エイズまん延防止	低感染率	高	低	低	低	低	低	低	低
結核まん延防止	低死亡率	高	低	中	中	低	高	低	中

**目標7: 環境の持続可能性確保**

安全な飲料水のない 人口半減	高 (保障の割合)	低	高	中	高	中	低	高	中
衛生設備のない 人口半減	高 (保障の割合)	とても低い	低	低	とても低い	中	低	中	高
スラム居住者の 生活改善	中(スラム居 住者の割合)	とても高い	中	高	高	中	中	中	-

**目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進**

インターネット利用者	高アクセス	中	高	中	低	高	低	高	高
------------	-------	---	---	---	---	---	---	---	---

◆情報源: FAO, IPU, ILO, ITU, UNAIDS, UNESCO, UN-HABITAT, UNICEF, 国連人口部, 世銀, WHOにより提供された2012年6月現在のデータ及び推計

◆編集 : 国連経済社会局統計部

(注) 枠内の色は、2015年の目標達成に向けた進展の度合いを表したものである。従って、各地域の状況の良し悪しと関連がある場合が多いが、必ずしも各地域の状況自体を示したものではない。

<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: #90EE90; border: 1px solid black;"></span> 目標達成済み、または、2015年までの目標達成が見込まれる。	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: #FF0000; border: 1px solid black;"></span> 進展なし、または、悪化。
<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: #FFD700; border: 1px solid black;"></span> 現状のままでは2015年には目標達成不可能。	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: #FFFFFF; border: 1px solid black;"></span> データが不十分。

(引用・図: 外務省 政府開発援助 ODA ホームページ「ミレニアム開発目標とは」)

### Ⅲ. 人間開発報告書

UNDP（国連開発計画）が 1990 年から刊行。国の開発の度合いを測定する尺度として、1 人当たりの GDP、平均寿命、就学率を基本要素として、これらを独自の数式に基づき「人間開発指数」として指数化した。この指標を用いて、毎年異なるテーマの下に人間開発のあり方を問題提起し、国際社会の議論をリードする。

（参考：人間開発報告書ホームページ）

#### Ⅲ－ 1. 2005「一岐路に立つ国際協力：不平等な世界での援助、貿易、安全保障」

##### 【人間開発】

##### ・ 人間開発とは？

『開発の基本的な目標は人々の選択肢を拡大することである。これらの選択肢は原則として、無限に存在し、また移ろいゆくものである。人は時に、所得や成長率のように即時的・同時的に表れることのない成果、つまり、知識へのアクセスの拡大、栄養状態や医療サービスの向上、生計の安定、犯罪や身体的な暴力からの安全の確保、十分な余暇、政治的・文化的自由や地域社会の活動への参加意識などに価値を見出す。開発の目的とは、人々が、長寿で、健康かつ創造的な人生を享受するための環境を創造することなのである。』

マブール・ハック

##### ・ 人間開発の現状

「世界経済がますます繁栄する中であって、毎年 1070 万人の子どもたちが 5 歳の誕生日を迎えずに死亡し、10 億を超える人々が極度の貧困状態にあって、1 日 1 ドル未満でなんとか生き延びている。」

「人類の 5 人に 1 人は 1 杯のカプチーノに 1 日 2 ドル使うことを何とも思わない人がたくさんいる国々で暮らしている。しかし他方では、5 人に 1 人は 1 日 1 ドル未満で生活し、一張りの蚊帳がないために子どもたちが死んでいく国々で暮らしている。」

##### ・ 世界に存在する不平等

「ジェンダー、所属する集団のアイデンティティ、財産の有無、住んでいる場所によって、平等な機会を得られない人々がいる。このような不平等は不当である。同時に、これは経済的な損失であり、社会的な不安定要素にもなっている。」

→ 資料レジュメ 『失われた女性たち (missing women) 』

「X の染色体を 2 つ持って生まれたことが不利益となり、毎年 13 万人もの命が失われている。」

### 【国際協力の定義】

「国際社会全体の平和と安定、発展のために、開発途上国・地域の人々を支援すること」

### 【国際協力における3つの柱】

1. 開発援助
2. 国際貿易
3. 安全保障

#### 《開発援助》

・開発援助とは？

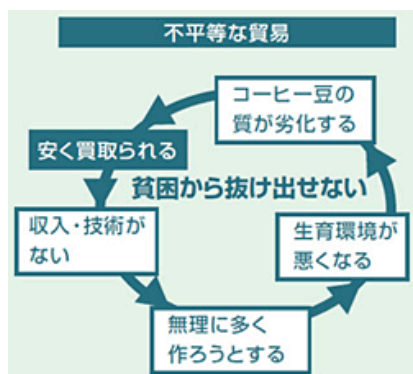
「開発途上国の経済・社会の発展や福祉の向上を支援するために、政府が行う資金や技術面での援助」

・効果的な援助を行うための条件

- ① 人間開発の急成長を支援するのに十分な量の援助を行うこと
  - ② 援助は、予測可能で、取扱い費用が安く、援助額に見合う価値のある援助が提供されなければならない。
  - ③ 効果的な援助には「当事国の主体性」が必要
- しかし、いまだに一つも満たされていない

#### 《国際貿易》

貿易は多額なお金が動くものであり、適切な状況で行われれば、人間開発の面で大きな役割を果たすことができる。しかし、実際には不公平なルールが存在し、人間開発を促す力が発揮されていない。



(図 : <http://www.oecmondake.com/hpgen/HPB/entries/4.html>)

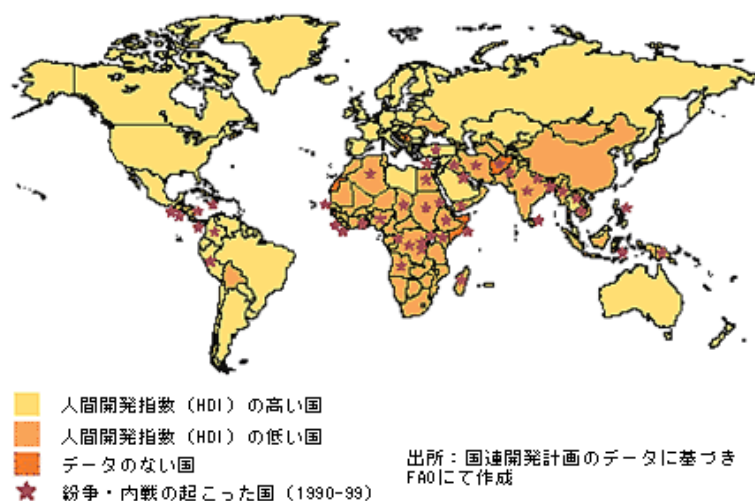
## 《安全保障》

『平和を求める闘いは、2つの前線で行わなければならない。第1は安全保障の前線であり、その勝利は恐怖からの自由を意味する。第2は経済的、社会的な前線であり、その勝利は欠乏からの自由を意味する。両方の前線で勝利することによってはじめて、世界の恒久的な平和を保障し得る。』

エドワード・R・ステッティニアス

### ・貧困と紛争の関係

「紛争は栄養状態と公衆衛生を悪化させ、教育制度を破壊し、暮らしを崩壊させて、将来の経済成長を停滞させる。」



(図：[http://www.jiid.or.jp/files/04public/02ardec/ardec35/key\\_note1.htm](http://www.jiid.or.jp/files/04public/02ardec/ardec35/key_note1.htm))

### ・先進国の役割

#### ① 長期的な支援

「援助国は、紛争直後の時期には、しばしば人道支援に対して大きなコミットメントを行う。しかし、その後の数年間の経済回復に対しては援助国は消極的で、支援を引き続き行わないことがよくある。」

#### ② 紛争予防

「効果的な早期警戒システムの構築から介入までを行えるように、紛争地域の地域的対応能力を確立することが依然として人間の安全保障にとっての緊急課題になっている。」

#### ③ 復興の機会を逃さない

「和平合意がなされても、それが暴力の再燃への序章となるケースが多い。実際にいった

ん武力紛争から抜け出した国の半数が、5年以内に再び戦争状態に逆戻りしている。この循環を断つためには、長期にわたり安全を保障し、復興を監視し、そして競争力のある市場の発展と民間セクターへの投資を促すような状況をつくり出す、政治的および財政的な取り組みが必要である。」

### Ⅲ-2. 2011「持続可能性と公平性—より良い未来をすべての人に」

#### ① なぜ、持続可能性と公平性を論じるのか

★持続可能性と公平性を一体のものとして考えるべき理由

スディル・アーナンドとアマルティア・センの言葉

「世代間の平等の問題をおざなりにしたまま、世代内の平等についてばかり考えるのは」と、この2人の研究者は指摘した。「普遍的平等の精神を甚だしく蹂躪する態度と言わざるをえない」。

環境の持続可能性と公平性の両方を追求するといっても、必ずしも両者が互いに補強し合う関係にあるとは限らない。しばしば、この2つの要素はトレードオフの関係にある。環境を改善しようとする、平等が阻害される場合がある。環境保護の取組みが途上国の経済成長を制約するケースはその一例である。

#### ② 人間開発のパターンとトレンド、公平性と環境の指標

多くの場合、最も恵まれない人々は、問題の原因をほとんど生み出していないにもかかわらず、環境破壊の打撃を被っており、これからも被り続ける。たとえばHDI低位国は、地球の気候の変化への寄与は最も小さいが、降水量の減少幅が最も大きく、変化率の上昇率も最も大きい。

#### ③ 影響を明らかにする—関係を理解する

最も恵まれない人たちが二重の打撃に苛まれているという点である。そのような人々は、地球レベルの環境破壊の打撃をとくに被りやすいうえに、屋内の空気の汚染や水質の悪さ、劣悪な衛生環境などの身近な環境上の脅威にもさらされている。



MPI（多次元貧困指数）の値を見ると、保健、教育、生活水準のすべての面において、貧困状態にある人の数が増えており、しかもそのような人々の貧困のレベルも悪化している。

#### ★人間開発のいくつかの側面に対する環境上の脅威

環境破壊は、所得と生計の側面にとどまらず、さまざまな面で人間の能力を阻害する。保健や教育など、幸福のそのほかの側面にも影響を及ぼすのである。

#### ★異常気象が不平等を拡大する

異常気象の影響を受ける人の数が10%増えると、その国のHDIの値が2%近く悪化する。とくに大きな影響を受けるのは、HDIの3要素のなかでは所得の側面、国のHDIのレベルで言えばHDI中位国である。

### 4 好ましい相乗効果——環境、公平性、人間開発のすべてを向上させる戦略

#### ★現代的なエネルギー源へのアクセス

エネルギーは人間開発に欠かせないものだが、世界で約15億人（世界の人口の5人に1人以上）が電気のない生活を送っている。

#### ★環境破壊を回避する

リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）に関する医療・保健サービスを利用できることなど、生殖に関する権利を得ることは、女性のエンパワーメントの前提条件であり、環境破壊を回避する効果がある。

### 5 政策の課題に取り組む

#### ★必要な資金の調達——私たちはどういう立場を取るのか

通貨取引税

本報告書の新しい分析によると、税率をきわめて低く（0.005%）抑えても、新たな事務処理コストをいっさい発生させることなく、年間約 400 億ドルの税収を増やせる。国際的な論議で必要性が指摘されている規模の新規の資金需要を満たせる政策上の選択肢は、ほかに多くない。

### Ⅲ－３． 2013「南の台頭——多様な世界における人間開発」

#### 【「南」の国々の台頭】

「ブラジル、中国、インドという新興 3 大国の総生産がカナダ、フランス、ドイツ、イタリア、英国、米国の総生産とほぼ肩を並べた。（中略）インドネシア、メキシコ、南アフリカ、トルコという大国.....それより小さなバングラデシュ、チリ、ガーナ、モーリシャス、ルワンダ、タイ、チュニジアなども大きな前進を遂げている。」

→南の大部分における生活水準の向上により、極度の貧困下で生活する人々が世界人口に占める割合は 1990 年の 43%から 2008 年の 22%へと急減。（ミレニアム開発目標の貧困撲滅ターゲットを達成）

→世界は画期的な「グローバルな均衡の再調整」の中にある。

#### 【開発変容の原動力——なぜ南は台頭できたのか】

##### ①積極的な発展志向国家

「基本的な社会サービスの拡充...公共サービスを通じての人々の能力への投資は、成長プロセスの付随物ではなく不可欠な一部分である。」

##### ②グローバル市場の開拓

戦略＝「他の世界が熟知したものを輸入し、他の世界が欲しがっているものを輸出する」と、市場に対する関わり方＝「人々、機関およびインフラに投資しながら国内状況に沿って順を踏んでいく世界経済との統合」

##### ③確固とした社会政策とイノベーション

「かなりの水準の公共投資、それもインフラだけでなく教育と保健への投資なしに成長している国は、ほとんど存在しない。」

### 【勢いの持続化のための4つの重要分野】

- ①公平性の強化
- ②発言と参加機会の拡大
- ③環境上の脅威への対処
- ④人口動態の管理

### 【新しい時代に求められるガバナンスとパートナーシップ】

- ・開発が遅れている国々は南の新興国の成功から教訓を学び、恩恵を得ることができる
  
- ・新たな機構とパートナーシップによって、地域統合と南南間の関係強化を促進することができる
  
- ・南と市民社会の発言力拡大によって、グローバルな課題解決を加速できる  
「世界の問題に対する解決策の発見において多様性を生産的に活用するガバナンス機構を築き上げる機会」
  
- ・南の台頭は、公共財の供給拡大の新たな機会を意味している  
「持続可能な世界には、グローバルな公共財の供給拡大が求められる。現在、グローバルな問題は気候変動から国際的な経済・金融の不安定、テロとの闘い、核拡散にいたるまで、その数と緊急性を増している。これらの問題はグローバルな対応を必要とする。しかし、多くの領域において国際協調は遅れたままであり…」

## III-4. 2010「国家の真の豊かさ—人間開発への道筋」

### 【人間開発の基本概念の再定義】

「人々が長寿で、健康で、創造的な人生を送る自由」、「意義ある目標を追求する自由」、そして、「すべての人類の共有財産である地球上で、平等かつ持続的な開発を進めるプロセスに積極的に関わる自由」を拡大することである。

### 【新たな3つの指標】

人間開発指数(HDI)の算出方法を時代に合わせて修正し、新たな3つの指数—不平等調整済み人間開発指数(IHDI)、ジェンダー不平等指数(GII)、多次元貧困指数(MPI)を導入。

### Ⅲ－５．人間開発指数をもとにした地域別の開発傾向

#### ●アラブ諸国

平均 HDI は 0.652 (開発途上 6 地域中 4 位)

2000 年以降の HDI の年間平均上昇率ではイエメンがトップ (1.66%)。

アラブ諸国は雇用／人口比率が 6 地域のなかで最も低く (52.6%)、世界平均の 65.8%を大幅に下回っている。

#### ●東アジア・太平洋諸国

平均 HDI は 0.683

2000～12 年の HDI の年間平均上昇率は 1.31%。国別では東ティモールの上昇率が 2.71%で最も高く、ミャンマーが 2.23%で続く。

東アジア・太平洋地域は、雇用／人口比率が 74.5%と 6 地域のなかで最も高い。

#### ●東欧・中央アジア

平均 HDI は 0.771 (開発途上 6 地域中 1 位)

多次元貧困は最も少ないが、雇用／人口比率は 58.4%で 6 地域中 2 番目に低い。

#### ●ラテンアメリカ・カリブ海諸国

平均 HDI は 0.741 (東欧・中央アジアに次ぐ 6 地域中 2 位)

多次元貧困は比較的少なく、ギャラップ世界世論調査による総合生活満足度は 6.5 (10 段階評定) と 6 地域のなかで最も高い。

#### ●南アジア

平均 HDI は 0.558 (6 地域中 5 位)

2000～12 年の HDI の年間平均上昇率は 1.43%で 6 地域中最も高い。国別ではアフガニスタンが最も高く (3.9%)、次いでパキスタン (1.7%)、インド (1.5%) となっている。

#### ●サハラ以南アフリカ

平均 HDI は 0.475 (6 地域中最下位)

が、上昇ペースは速まっている。2000～12 年の HDI の年間平均上昇率は 1.34%で、南アジアに次ぐ 2 位。国別ではシエラレオネ (3.4%) とエチオピア (3.1%) の上昇率が最も高い。

(参考：人間開発報告書 2013 発表時プレスリリース・人間開発指数について)

## ■論点

MDGs（ミレニアム開発目標）の達成には「都市化」が大きな役割を果たすと言われている。世界の財を生み出しているのが主に都市部である点、また都市部は衛生的な設備が整っているということから期待されており、実際に東アジアやラテンアメリカでは、都市化により貧困状態から脱却できた地域も多くある。

しかし一方で、都市化をすると都市化をすると都市がスラム化してしまう、また急激な都市の人口増加により貧困と不衛生の温床になってしまうのではないかという問題もある。

以上の点を踏まえたうえで、我々先進国は発展途上国の年かを援助すべきか。

⇒都市化とは、国を援助する際に都市にその労力をつぎ込むことである。当初はそれが農村部を見捨てることになるのでは、と考える人もいた。しかし、「都市にお金をかければ国が豊かになって、結果的に国全体、農村部にまでインフラの整備などが行き渡る」という考えに大多数が納得したことから、都市化を肯定する見方が強まった。

## ■参考資料

### MDGs 達成には「都市化」が有効？ 世銀・IMF が報告書

世界銀行と国際通貨基金（IMF）は4月17日、「グローバル・モニタリング・レポート 2013：農村と都市の力学とミレニアム開発目標」を発表した。このなかで、都市化は途上国の人たちを貧困から救い出す半面、適切な管理をしないと都市にはスラムが形成され、公害や犯罪がまん延する、と指摘した。

レポートによると、都市化は、貧困削減をはじめとする「ミレニアム開発目標」（MDGs）の達成に大きな役割を果たしている。世界の財とサービスの8割以上を都市が生み出しているため、こうした成長のエンジンをてこに、都市化が比較的進んだ東アジアやラテンアメリカでは「極度の貧困」（1日1.25ドル以下で生活する貧困層）の削減に成功した。対照的に、都市化が遅れた南アジアとサブサハラ（サハラ砂漠以南）アフリカではいまだに貧困率は高く、MDGsの進ちょく状況も大半の項目で芳しくない。

レポートは、都市と農村のさまざまなデータを比較している。たとえば乳児死亡率をみると、農村よりも都市のほうが低い。同じ国であっても、都市と農村の開きは大きく、その差はラテンアメリカと中央アジアで8～9%、中東・北アフリカや南アジア、サブサハラアフリカでは10～16%、東アジアでは21%にも及ぶ。

衛生設備へのアクセスも、都市のほうが農村より良い。南アジアでは、衛生設備があるのは都市で 60%。これに対して農村はその半分以下の 28%だ。サブサハラアフリカでも、都市は 42%と、農村の 23%を上回る。

さらに安全な水へのアクセスも、途上国の都市は 96%とかなり改善されてきたが、農村は 81%にとどまっている。

こうした数字を並べると都市化が開発をけん引しているが、その一方で深刻な問題となっているのが、都市のスラム化だ。レポートによると、スラムで生活する人口は世界で 8 億 2800 万人。この 61%はアジアに集中し、アフリカ (25.5%) とラテンアメリカ (13.4%) がこれに続く。

途上国の都心部には、2030 年までに増加が見込まれる世界人口 14 億人の 96%が流入するとみられる。こうした急激な都市人口の増大に対応するには、交通や住宅、水・衛生、教育、保健といった基本的ニーズを急いで整備する必要があり、これが不十分だと、都市は、貧困と不衛生の温床になりかねないのが現実だ。

途上国の貧困層 12 億人の 76%が暮らす農村。農村の開発の方向性についてレポートは、農村を犠牲にするのではなく、健全な都市化を促進する相互補完的な農村・都市の開発政策と行動を途上国政府はとるべき、と結論付けている。

レポートによると、MDGs が掲げる 8 つの目標・21 のターゲットのうち、母子死亡率の削減や衛生設備の整備などは、MDGs の達成期限である 2015 年までに達成できない見通し。一方で、極度の貧困の半減、安全な水へのアクセス確保、初等教育でのジェンダー格差の解消はすでに達成済みだ。

(開発メディア ganas 「MDGs 達成には『都市化』が有効? 世銀・IMF が報告書」  
<http://dev-media.blogspot.jp/2013/04/mdgsimf.html> )

## 【参考文献】

国連開発計画, 2005, 『人間開発報告書 2005 岐路に立つ国際協力: 不平等な世界での援助、貿易、安全保障』, 国連開発計画 駐日代表事務所

国連開発計画, 2010, 『人間開発報告書 2010 国家の真の豊かさ—人間開発への道筋』, 阪急コミュニケーションズ

国連開発計画, 2011, 『人間開発報告書 2011 持続可能性と公平性—より良い未来をすべての人に』, 阪急コミュニケーションズ

国連開発計画, 2013, 『人間開発報告書 2013 南の台頭—多様な世界における人間開発』, 阪急コミュニケーションズ

動く→動かす (2012) 『ミレニアム開発目標 世界から貧困をなくす 8つの方法』, 合同出版

田中優 ら (2006) 『世界から貧しさをなくす 30の方法』, 合同出版

## 【参照サイト】

・ Poverty Reduction and Economic Management - World Bank

”The State of the Poor: Where are the Poor and where are they Poorest?”

[http://www.worldbank.org/content/dam/Worldbank/document/State\\_of\\_the\\_poor\\_paper\\_April17.pdf](http://www.worldbank.org/content/dam/Worldbank/document/State_of_the_poor_paper_April17.pdf)

・ 外務省 政府開発援助 ODA 「ミレニアム開発目標とは」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs/about.html>

・ 独立行政法人 国際協力機構 「国際協力とは」

<http://www.jica.go.jp/aboutoda/whats/cooperation.html>

・ kotobank 「政府開発援助」

<http://kotobank.jp/word/%E6%94%BF%E5%BA%9C%E9%96%8B%E7%99%BA%E6%8F%B4%E5%8A%A9>

・ 国連開発計画 「グローバルな人間開発報告書」

<http://www.undp.or.jp/hdr/global/>

・ 国連開発計画パンフレット 『人間開発ってなに?』

[http://www.undp.or.jp/publications/pdf/whats\\_hd200702.pdf](http://www.undp.or.jp/publications/pdf/whats_hd200702.pdf)

・ 国連開発計画 人間開発報告書 2013 発表時プレスリリース・人間開発指数について

[http://www.undp.or.jp/hdr/global/pdf/HDI-HDR2013\\_release\\_Jrev.pdf](http://www.undp.or.jp/hdr/global/pdf/HDI-HDR2013_release_Jrev.pdf)

・ 開発メディア ganas 「MDGs 達成には『都市化』が有効? 世銀・IMF が報告書」

<http://dev-media.blogspot.jp/2013/04/mdgsimf.html>

・ 日本経済新聞 「悩める幸せの国ブータン 格差拡大で経済振興策」

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1505Q\\_Q3A520C1EB2000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1505Q_Q3A520C1EB2000/)

・ WIRED 「経済成長と幸福は一致しない? 中国で生活満足度が急落のワケ」

<http://sankei.jp.msn.com/wired/news/120524/wir12052417200001-n1.htm>